

最終報告用

令和6年度 御殿場市議会経済環境委員会 管内視察報告書

1 視察日程

令和6年5月15日（水）

2 視察先及び視察事項

(1) 富士山エコパークについて

(2) 浄化センターについて

3 参加者

委員長 勝間田 博文

副委員長 永井 誠一

委員 森 順

後藤 真弥

辻川 公子

勝又 正人

田代 耕一

事務局 岩田 晴美

浅子 菜美

5. 視察内容

■ 『富士山エコパークについて』

令和6年5月15日（水） 10:00～12:00 於：富士山エコパーク

《視察研修の目的》

我々の日常生活に必要な不可欠な施設である。且つ自然環境に配慮し景観や周辺地域に配慮した「自然」「人」「生活」が循環する循環型社会を目指している施設である。その様な中、システム化された焼却センター及び再資源化センターの取組について学ぶ。

《視察先の概要》

所在地は、御殿場市板妻。焼却センターは1日143t(71.5t/24h×2炉)のごみを焼却処理する事が出来る。敷地面積は約5.57ha(55,767㎡)。再資源化センターは敷地面積が約4.3ha。●粗大ごみ・不燃ごみ処理系列：13.8t/日(5h)●ビン処理系列：3.8t/日(5h)●カン処理系列：1.7t/日(5h)●ペットボトル処理系列：1.3t/日(5h)●保管系列(金属、小型家電類、有害ごみ、危険ごみ、処理困難物等)。

《視察内容》

- 焼却センターでは、座学の後、現地視察をし、受入供給設備、焼却設備、灰処理設備、計装制御設備、排ガス処理設備、燃焼ガス冷却設備、発電設備とそして、ごみ焼却、焼却残渣・飛灰の搬出、排ガスの放出、蒸気の循環再利用の流れについて学習した。
- 再資源化センターでは、座学の後、現地視察をし、粗大ごみ・不燃ごみ処理系列とビン・カン・ペットボトル処理系列について学んだ。
- 循環型社会の形成を目指した設計と最新技術による施工により、厳しい環境基準をクリアした施設について学び、また状況の確認をした。

《考 察》

- 世界遺産登録された富士山の麓で、ゴミの処理施設があるというのは循環型社会という点では大事なことであり、ゴミ焼却で発生した熱を回収し、余剰電力を売電することで有効活用し、公共施設等に使用している点について感心している。
- 視界360°の展望回廊、憩いの場となる多目的広場、災害時の避難所としての機能等を備えた魅力的な施設となっている為、様々な理由(景観の悪化、不動産価値への影響、悪臭等)で近隣住民に忌避される従来のごみ処理施設のイメージを覆している。
- PFI方式の当施設では、民間活力の利用により、斬新で理にかなった発想が数々あり、成功モデルとして全国的に広がっていく可能性を感じる。
- 再資源化センターに於いて、分別作業をする職員の方の安全を確保する為、市民に対する継続的な情報提供、教育及び啓発活動が必要と思料する。
- 障がい者雇用に貢献している事に、感謝。今後も知恵を絞って、更なる障がい者雇用の拡大に期待をする。



以下、視察先ごとに記載する。

■ 『浄化センターについて』

令和6年5月15日（水） 13:30～14:30 於：浄化センター

《視察研修の目的》

我々の生活に必要不可欠なインフラである、御殿場市浄化センター事業について学習し、今後の水質保全や生活改善等々に活かしていく。

《視察先の概要》

所在地は御殿場市竈。運用開始は平成6年3月。敷地面積は37,860㎡。処理方式は標準活性汚泥法(当初のみオキシデーションディッチ法)。排除方法は分流式。放流先は黄瀬川(一級河川)。

《視察内容》

御殿場市浄化センターに於いて、公設浄化槽事業や公共下水事業等々について座学を受け、その後、施設内で視察研修をした。
平成6年3月運転開始以来、オキシデーションディッチ法による処理槽と標準活性汚泥法による処理槽を併用し、令和9年の水洗化率93%を目標として、御殿場処理区の整備を進めている。また、本年度から脱臭機の更新を実施するなど施設の整備を進める一方、耐震性について点検調査を行い、最新の耐震基準に基づく施設の安全確保を図っている。

《考 察》

- 長期的なアセットマネジメントの観点からの整備計画に妥当性があり、人口の変動と処理区の整備状況を見据えながら施設の増設を考慮している点を評価したい。
- 今後施設の共同利用などに経済的な妥当性があるかを見極めながら、農業集落排水事業との共同化も検討する必要があると思われる。
- 「富士の麓の高原都市にふさわしい水環境保全重点計画」が発表されている。御殿場浄化センターについては再構築計画に基づく施設の耐震化や機器の更新を、管渠施設についてはストックマネジメント計画に基づく点検・調査を進める事で、事故の未然防止を図るものである。これら計画の実行推移をしっかりと注視し、御殿場市の公共下水道事業の健全経営・安定化を見守っていききたい。
- 公共下水道が使用できる地域内での接続率を向上させる施策が必要と考える。
- 施設の老朽化に対する平素からの計画的なメンテナンスの継続が必要と考える。
- 桜と富士山と SL マンホール蓋について、今後愛好家への売却等も含め活用策を研究して頂きたい。

